# 【上司に転職の相談をしても大丈夫？】

会社の方針や待遇が気に食わない、もっと他にやりたいことがある……など様々な理由で転職したいと思ったことがある人も多いのではないでしょうか？しかし、いざ転職するとなると上司に転職の相談をしても大丈夫なのか気になるところです。

上司によっては当然引き留められることも考えられますし、快く送り出してくれることも考えられます。円満に転職するためにはどうすればいいのでしょうか。それでは、上司に転職の相談をしても大丈夫かご説明しましょう。

## 【上司に転職の相談をする前に覚えておきたいこと】

上司に転職の相談をする前に覚えておきたいことがあります。転職するということは社員が一人辞めるということになるので、会社の迷惑にならないようにするのが大前提です。また、説得が上手い上司にあたると心に響くことを言われて転職の決心が鈍る可能性があることも忘れないようにしましょう。

それでは、上司に転職の相談をする前に覚えておきたいことについてご説明しましょう。

### 〇転職の意思決定を上司に委ねないこと

まず大事なのが、「転職したいと思うのですが、どうすればいいでしょうか」などと転職の意思決定を上司に委ねるのはNGです。それこそ前述の通り、上司に説得されて転職の意思決定が鈍る可能性がありますし、転職なんてもってのほかだと言われてしまうかもしれません。

本気で転職をするつもりなのであれば、ハッキリと転職する意思を伝えることが何よりも重要です。

### 〇本当に転職したいのか気持ちを整理すること

曖昧な気持ちで転職したいと考えていても、退職した後で「転職しなければよかった」などと後悔することになってしまいます。転職の意思決定は大切ですが、自分は本当に転職したいのか、なぜ転職したいのか、本当に今の環境よりも転職した方が良いと思えるのだろうかなど気持ちを整理しましょう。

ここで曖昧な気持ちしか浮かばないようであれば転職するのはおすすめできませんし、まだ今の会社に未練があると言えます。本気で転職するつもりなのであれば、一度決めた決心は何を言われても揺らがないくらいの気持ちでいることも大切です。転職する気持ちをハッキリさせてから転職活動に臨みましょう。

### 〇一方的に辞める宣言は社会人としてNG

転職する意思を上司に伝える際に、「〇月〇日に退職させていただきます」という強硬手段で一方的に会社を辞める宣言をするのは社会人のマナーとしてNGです。転職するなら今の会社との関係を円満な状態で退職するのが理想的であり、自分の一方的な転職の意思決定は上司とのトラブルに発展してしまう可能性があります。

ここは一方的に退職の意思を示すのではなく、退職届や退職願を提出しつつ、丁寧に落ち着いた表現で退職する旨をハッキリと伝えましょう。

### 〇相談は直属の上司に

円満退職するためにも、転職の相談は直属の上司に行うのがマナーです。上司ではなく部長や社長など上司よりも役職が高い人に転職の相談をすると、上司とのトラブルに発展する可能性があります。上司から「自分は信用されていない」「なぜ自分に相談してくれないんだ」と思われてしまい、上司との関係が悪化してしまうでしょう。

相談の経緯が上司の耳に入ることも想定されるため、たとえ上司との折り合いが悪かったり忙しそうにしていたりしていても必ず相談しましょう。

### 〇ほぼ確実に引き留められるので、転職理由はポジティブかつ明確に

上司に転職の相談をしたところで、ほぼ格汁に引き留められると思ってください。ここで話す理由は一身上の都合でも構いませんが、詳しい理由を聞かれることがほとんどなので円満に退職するためにもポジティブな理由を伝えると納得してもらいやすいです。

「今の会社にもやりがいを感じているが、元々きょみがあった〇〇の業種に就きたいと思っている」など、スキルアップやキャリアアップなど自身の成長に繋げるための転職理由であれば共感してもらえるでしょう。また、家庭の事情や体調に関することでも納得してもらいやすいです。

最後には、これまでお世話になったことについてきちんと感謝の意を伝えることも大切です。社会人として上司を納得させることがマナ＾だと言えるでしょう。

## 【無事に転職先が決まったらどうすればいい？】

もしも無事に転職先が決まっている場合、早めに行動する必要性があります。いきなり転職するので退職させていただきたいと言うのは非常に失礼なので、円満退職するためにも気を付けるべき行動を知っておきましょう。

それでは、無事に転職先が決まったらどうすればいいのかご説明しましょう。

### 〇退職希望日より2ヶ月～3ヶ月前に申し出る

社会人として退職希望日にいきなり退職すると伝えるのは絶対にNGです。そもそも社員が退職する場合、会社は辞めた社員の埋め合わせをしなければならないため、それに伴って採用活動や社員一人分の仕事を誰かに引き継いでもらわなければならないなど、転職されるだけでも会社やほかの社員に迷惑がかかってしまうと言えます。

したがって退職する時は退職希望日より2ヶ月～3ヶ月前、遅くても1ヶ月～1ヶ月半前に退職することを伝えましょう。また、猶予があっても繁忙期や上司が大事なプロジェクトに携わっている場合はそれどころではないので、忙しくない時に相談するのがマナーです。

### 〇口頭でアポイントを取り、就業後に1対1で相談する

上司に転職の相談をするときは、いきなり転職の話をもちかけるのはNGです。特に上司が仕事で忙しい場合、転職の話をされても仕事で手一杯なので真剣に取り合う余裕がありません。したがって、口頭でアポイントを取り、就業後に1対1で転職の話をするのがマナーです。

就業後の1対1であれば上司もこちらの話を真剣に聞いてくれますし、転職に真剣であることを伝えやすくなります。ここで正式に転職の了承が取れたら、会社の社則にしたがって退職願を提出しましょう。

## 【もしも職場環境が改善されたら留まるのもアリ】

特定の人間関係や今の部署が性に合わないなどの転職理由の場合、職場環境が改善されたら転職を踏み留まるのもアリです。しかし、これらの都合でない場合に転職の意思を撤回しても一度は転職を考えた人として見られるので注意が必要です。

上司としては転職の相談を受けた場合、引継ぎや採用活動といった面倒ごとが発生するので嫌だと言う理由がある可能性がある上、ここで転職されると自分の評価が下がってしまうという自分本位な理由で引き留められることもあります。

ただ、どうしても社内の人間関係や待遇に不満を持って転職を考えていることを伝えた場合、上司から環境や待遇の改善を打診されることがあります。先ほどご説明したように転職を踏みとどまるのもアリですが、単に転職させない口実である可能性もあるので、一定期間内に環境や待遇が改善されなければ退職する旨を伝えるのが得策です。

## 【まとめ】

転職は本人にとって重大な決断であり、今後の人生を大きく左右するものです。ただ、転職するのであれば事前に直属の上司に相談するのが社会人としてのマナーです。転職の相談をするだけならいつ言っても構いませんが、先に転職先が決まったなら退職希望日より2ヶ月～3ヶ月前、遅くて1ヶ月～1ヶ月半前に相談しましょう。

円満退職をするためにも、上司の引き留めにも揺らがない転職する固い決心を持って相談するのが得策です。